

交換留学報告書

* この報告書に記載される内容は多文化社会学部のウェブサイト等に記載いたしますので、予めご了承ください。

氏名	上野 詩織	学年(渡航時)	3 年
派遣先大学	ライデン大学		
国・地域	オランダ・ランデン		
派遣期間	2024 年 9 月 ~	2025 年 7 月	

履修科目

1 学期目	
履修科目	授業内容
Dutch Debate WGR	オランダの社会や文化などについてディベートを行う
Dutch Painting 1400-1950 LEC	1400～1950 年のオランダの絵画について学ぶ
Dutch: Writing/Grammar 1A langu DLT	オランダ語のライティングと文法
Dutch: Speaking/listen 1A Langu DLT	オランダ語のスピーキングとリスニング
Culture and Society of the LEC	オランダの文化や社会について学ぶ
Dutch: Reading/Vocabulary 1B TEN	オランダ語のリーディングと語彙
2 学期目	
履修科目	授業内容
Intro. Dutch Linguistics TEN	オランダ語の言語学
Dutch: Writing/Grammar 1B langu DLT	オランダ語のライティングと文法
Dutch: Reading/Vocabulary 1B TEN	オランダ語のリーディングと語彙
Speaking/Listening 1B TEN	オランダ語のスピーキングとリスニング

留学レポート(1,500 字以上)

この留学を通して、オランダ語およびオランダの歴史や文化、社会などを深く学ぶことができました。さらに、大学だけの学びだけではなく、オランダ人や他の留学生との交流、地域のバレーボールチームやオランダのイベントへの参加などを通して学問からは得られないような知識や経験を積むことができました。

オランダ語は、留学前に比べて大きく向上したと感じています。授業ではオランダ語の習得を総合的に行いました。前期の授業は、リーディング、ライティングといった技術別ではなく、常に対話やゲームを行いながら進行され、オランダ語というものに抵抗感を抱くことなく授業に参加することができました。授業中では基本的にオランダ語のみを使用していたため、特にリスニング力が鍛えられました。また、「オランダ語で考える」姿勢が自然と身につき、言いたい単語がわからない時でも、簡単な語彙で言い換える努力をしました。

後期には、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングといった技能別の授業が行われ、それぞれに特化したアクティビティを通じて学びました。中でもスピーキング・リスニングの授業では、コンピューターを使って自分の発音と正しい発音を比較しながら練習する活動があり、ただ会話をこなすだけでなく、正確な発音を意識することができました。

授業以外でもオランダ語を使う機会を意識的に増やしました。特に大学のオランダ人学生との会話では、積極的にオランダ語を使うように努めました。オランダでは英語が通じやすいため、日常会話は英語になりがちでしたが、スーパーマーケットでの質問や自転車の修理依頼など、日常生活の中でもできる限りオランダ語を使いました。自転車屋さんの店主とは顔なじみになり、訪れるたびに「オランダ語が上達しているね」と褒めてもらえたこ

とが自信につながりました。

その他の授業では、「Dutch Debate」と「Dutch Painting」が特に印象に残っています。「Dutch Debate」では、毎回オランダの社会や文化に関するテーマに基づき、小グループでディスカッションを行いました。オランダの現状に関する話題に、自分の経験や考えを交えて話すことで、知見を広げ、考えを深めることができました。留学前の私は、自分の意見を話すことに抵抗があり、簡潔に済ませることが多かったのですが、先生やクラスメイトが「なぜ?」「どうして?」と掘り下げてくれたことで、自分自身の考えをより深く掘り下げるきっかけとなりました。臆病だった自分の性格にも変化が生まれたように思います。

「Dutch Painting」では、オランダの絵画について学びました。技法や画中のモチーフの説明だけでなく、当時の社会背景や画家の思想についても学ぶことができ、美術作品を多角的に捉える視点が身につきました。国立美術館やマーストリヒト美術館を訪れた際には、日本から来た友人に学んだ知識を説明することもでき、学びが実生活で生かされていることを実感しました。

大学以外でも、オランダの文化に触れられるさまざまなイベントに参加しました。特に印象に残っているのは、ライデンに住んでいたこともあり、10月3日に行われたライデン解放記念日です。この期間は町全体が盛り上がり、中心地には遊園地のようなアトラクションや屋台が並びました。私はオランダの伝統的なニンジン料理「ハーリング」を初めて食べました。パレードでは、歴史的な衣装を身にまとった人々が寸劇を披露したり、軍服姿の楽隊が行進したりと、町全体が祝祭ムードに包まれていました。馬の行進などもあり、とても興味深かったです。

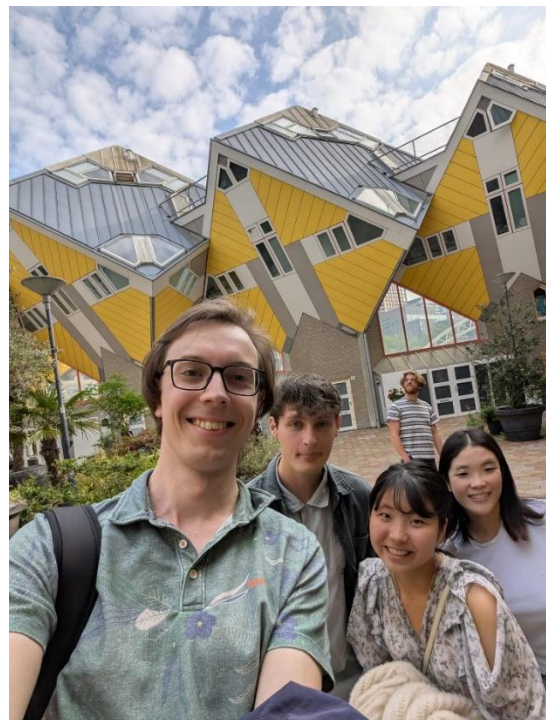
また、国王の誕生日を祝う「キングスデー」にも参加しました。街はオランダのシンボルカラーであるオレンジ色になり、人々はオレンジ色の服やアクセサリを身に着け、オレンジ色の食べ物も販売されていました。日本にはない、国全体が一体となって祝う雰囲気や、オランダ人の帰属意識を強く感じました。アムステルダム фонデル公園では、子どもたちによるフリーマーケットが開かれ、使わなくなったものを自ら販売していました。物を売るだけでなく、ダンスや似顔絵、歌など、自分の得意なことを披露してお金を得る姿に、多様性の受容とオランダ人の商才を感じました。

このような経験を通じて、多くの面で自分が成長したと実感しています。特に、「主体的に考える力」が一番伸びた点だと思います。オランダの教育や文化、日常生活に触れることで、物事を自分の視点で捉え、自分なりの意見や行動をもつ姿勢が自然と身につきました。この留学経験は、これからの人生においても大きな財産になると確信しています。

留学中の写真(5枚程度) ※写真のキャプションも入れること



Dutch Debate のメンバーでの集まり



Rotterdam のキューブハウスで友達と観光



バレーボール大会



オランダの遊園地 Efteling での一枚



Keukenhof に行ったときの一枚